

Book Review



月刊「デンタルハイジーン」別冊

超音波デブライドメントの 根拠と手技がわかる本

加藤雄大・小森朋栄 編著



Reviewer

大月基弘 Motohiro Otsuki
(大阪府・DUO specialists dental clinic)

AB判, 120頁
カラー
定価 3,960円
(本体 3,600円+税 10%)
医歯薬出版刊



超音波スケーラー。これほど広く普及して、毎日使うものでありながら、歯科医師、歯科衛生士ともほぼ教育されることなく使われているものも少ないのではないだろうか。しかも、多くの方がなんの疑いもなく、なんとなく使いつづけている。実際、歯石やバイオフィルムが取れているのかの実感もわからず、治っているような治っていないような…。

また、よかれと思い、メインテナンスで来院している患者さんに対し、ほとんどの時間、超音波スケーラーを握っている、そういった光景をよくみかける。どうしてそんなに時間をかけて使っているのかよくみると、歯肉縁上歯石の除去はともかく、全歯の歯肉縁下を超音波スケーラーを使用して清掃（あえて清掃という言葉を使う、掃除でもよい）しているのである。

歯周ポケット 3mm 以下で BoP(一)部へのむやみな歯肉縁下へのインストルメンテーションはアタッチメントロスを引き起こし、害こそあれ、有益な

ことはなにもない。スケーリング、SRP、デブライドメント、なんとなくわかっていて、違いを聞かれると説明できない方も多いのではないだろうか。それは大きな問題ということにお気づきいただきたい。

本書は超音波スケーラーの常識をわかりやすく噛み砕き、基本のキから学べる、読めば明日からの臨床が変わる実用書である。編著はスウェーデン学派で多くの教育をなさっている加藤雄大先生（スウェーデン・イエテボリ大学、歯周病科専門医過程卒業の可愛い後輩でもある）と、かの予防歯科の大家、Per Axelsson 先生のところで修行されていた小森朋栄先生である。

超音波スケーラーを扱うにあたっての知識がきっちりとわかりやすく整理されていて、「私はキュレット派、超音波スケーラーは信用していない」という昔気質の歯科衛生士さんにも刺さる内容となっている。あくまでも科学的根拠を記しており、総論的に、まず理解すべき内容である。

そして本書の特長は、「このようなポケットがあるときどうする？」の現場の歯科衛生士に役立つ部分が、症例写真と模型を用いて非常にわかりやすく解説されていることである。本書を読みながら、「今日の難しかったケースに似てる！ 私も参考にしてみようかな？」と思わせる部分が多く、今現場で使いたい！と思わせられる。

また、着色やデブライドメントに特化した、近年注目されているエアアブレーションの効果的な使い方についてもチャプターが割かれており、デンタルハイジーン別冊としての位置づけであるが、内容がぎゅっと凝縮されている本となっている。

本書は歯科衛生士だけに読んでもらうのはもったいない。医院の推薦図書として輪読などをしてもらおうと、医院のペリオ力が一段と底上げされる本である。個人的に 4,000 円を切る本としてコストパフォーマンスが抜群によく、大変おすすめの本である。